

大阪母子保健研究 4 1-4 9ヶ月時追跡データの結果 母乳摂取及び哺乳状況と虫歯との関連

背景：長期の母乳摂取や、寝る時のほ乳瓶の使用等は、虫歯のリスクを高めるといわれていますが、まだ、確定的な結論は得られていません。今回、母乳摂取期間、寝る時のほ乳瓶使用、ほ乳瓶での甘味料を含む飲料摂取及び離乳食開始月齢と虫歯リスクとの関連について解析しました。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回～第4回追跡調査（生後4 1-4 9ヶ月時）に参加した4 9 4名のうち、口腔内診査を受けた3 1 5名を対象としました。未処置歯あるいは処置歯のいずれかがある場合、虫歯有りと定義しました。母親の年齢、妊娠中母親喫煙、家計の年収、両親の教育歴、子供の性別、出生体重、歯牙萌出月齢、第4回及び第5回追跡調査時の歯磨き頻度、フッ化物使用、定期的歯科健診、受動喫煙及び口腔内診査時月齢を交絡因子として補正しました。

結果：母乳摂取6ヶ月未満に比較して、母乳摂取6-11ヶ月では、虫歯のリスク低下が認められましたが、母乳摂取18ヶ月以上では、リスクが上昇する傾向が認められました。ほ乳瓶での甘味料を含む飲料摂取は、有意に虫歯のリスクを高めました。また、離

乳食開始月齢6ヶ月未満に比較して、6ヶ月以降では、有意に虫歯リスク高めました。一方、寝る時のほ乳瓶の使用と虫歯リスクとの間には、統計学的に有意な関連は認めませんでした。

結論：18ヶ月以上の母乳摂取は、虫歯リスクの上昇と関連があるのかもしれませんが、母乳摂取期間6-17ヶ月では、虫歯リスクの上昇と関連がないことから、虫歯予防の観点から、最適な母乳摂取期間があるのかもしれませんが。

出典：Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S, Hirota Y. Infant feeding practices and risk of dental caries in Japan: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Dent* 2013; 35: 267-271.

